

# 幼児歌曲におけるピアノ伴奏の運指法に関する一考察

松本 亜香里

## 要旨

ピアニストが優れた伴奏者とは限らないことと同様に、ピアノが弾けることと、こどもが歌いやすい伴奏が弾けることとは、同じようでそうではない。保育者は、後者を意識しピアノを練習する。練習段階において、歌詞の内容や言葉の区切り、またはフレーズを意識するだけでなく、普段歌っている速さやこどもの声量、どれくらい息が続くかが第一段階となろう。次に、こどもの表現を助長したり促したりするには、伴奏者としてどのような曲想を心がけ、こどもへの言葉かけの有無や保育者自身の歌い方はどのようにするのかなど、歌唱活動一つにしても様々な角度から検討を重ねながら練習する。このように、多角的な視点で一つの歌に丁寧に向き合うには、保育者養成段階においてそのような視点を学び、修得する必要があると筆者は考える。先にも述べたとおり、ピアノが弾けることは勿論望ましいことではある。しかし、ピアノ初学者の学生が、目の前のこどもを意識した練習ができることへつなげるには、右手のメロディを片手で練習する段階で旋律や歌詞に着目し、自身で様々な速度で歌ってみる中で、息継ぎの場所や曲想の工夫をしたい。

本論では、学外実習や保育の場において生活の歌として歌われている曲の中から選曲し、右手でメロディを弾く場合の運指法と歌唱の息継ぎやフレーズに着目し、検討を行うこととした。

キーワード：音楽表現，ピアノ伴奏，運指法

## 1. はじめに

保育者養成校では、保育技術の一環として音楽の授業が設けられている。その授業内容は様々であるが、保育者養成課程のある大学や短期大学の中からホームページ上で公開されたシラバスからは、幼児歌曲やピアノを主軸とした内容が散見される。保育者のイメージとして挙げられるこどもと遊ぶ姿の一部としてピアノを弾きながら一緒に歌を楽しむことがあるためか、筆者が勤務するオープンキャンパスや学外ガイダンスにおいて、保育者志望者からの質問としてピアノを習ったことがないことや楽譜が読めないことが挙がる。「保育者になりたい」という将来の夢に向けて、入学前からピアノを習ったり、高校の音楽教諭に指導を受けたり、周りにいる弾ける人物から教えてもらったりする場合もあるが、ほとんどの入学者がピアノ初学者（以下初学者）であることが現状である。

しかし、短期大学においては、保育の多様な勉強をしながらピアノ演奏の技術を身につけるために2年間もしくは3年間しかない。保育者の立場となると、歌いながらこどもの様子を観察し、こどもが歌を楽しんだり表現の幅が広がるよう直接言葉で語りかけることもあれば、ピアノ伴奏でこどもの表現を導いたり支えたりすることもある。そもそも保育の場において、歌唱活動をする場合にピアノでなければならないのか、保育者養成にかかわる学会や勉強会でも議論はなされているが、本論では、ピアノ伴奏をする場合に先述の配慮を優先するためのメロディを弾く右手の運指法に着目し、検討することとする。

## 2. 方法

生活の歌として保育の場において日常的に歌われることの多い以下の3曲を取り上げ、右手でメロディを弾く場合の運指法と歌唱の息継ぎやフレーズに着目し、検討を行う。選曲条件としてC-durであること、使用音域がドからドの1オクターブであることとした。

[1曲目]おはよう（増子とし作詞・本多鉄磨作曲）

[2曲目]おべんとう（天野蝶作詞・一宮道子作曲）

[3曲目]おかえりのうた（天野蝶作詞・一宮道子作曲）

## 3. 考察

### 3. 1. 各曲の楽曲的特徴および運指法

#### 3. 1 (1) 【おはよう】

C-dur でドから8度の音域で4分の2拍子、12小節から成り立つ。

ソの音から始まり2小節をフレーズと捉えたと、3度ずつ降下し5度以内に収まるため右手は指番号でいうと5と3と1のみで弾くことができる。しかし、4小節をフレーズと捉えたと、最後の1の指から1オクターブ上のドまで跳躍する。

まずこの3と4小節目で、初学者へはいくつかの運指法の提案が必要となる。一つは、右手を全開にして届く5の指の辺りでドを探すこと、もう一つは、5度の幅を保ったまま1オクターブ上のドを探し5の指を弾くことである。前者では一度手を広げてから5度の幅に戻すことが、初学者にとってはスムーズにできにくい。「せんせいおはよう、みなさんおはよう」の歌唱に合わせてこの4小節で一旦息継ぎを入れることが考えられるが、後者の場合は、ドに置いた指を完全に鍵盤から離さなければならないため、音が一旦切れてしまう。そのため、ピアノの音をよく聴いて歌っているこどもはここで息継ぎするかフレーズを切る可能性が出てくる。ここでの2小節ごとの息継ぎは、4分音符の次にそのタイミング入るためこどもにとって無理のない間はあるが、息継ぎの間隔を感覚として身につけてしまうと、次の5から8小節目までの4小節を2小節で区切った場合に、16分音符の次に瞬時に息継ぎをしなければならないため息継ぎに関しては困難な状況が生じる。

どちらの運指法を用いても、3小節目のドは5の指となり、その後1度ずつ降下し、5

小節目がミから始まるため、4小節目の音から2度離れる。5から6小節目は6度の音域であるが、5つの音しか出ないため、5小節目出だしのミは1の指となり、ミソラドの音に1と2と3と5の指を置いて弾けば7小節目の頭までは指の返しが必要ではない。

5から8小節の歌詞が「おはなもにこにこわらっています」のため、言葉の流れと息継ぎのタイミングを考慮すると、7小節目でミより下の音になるため、指の返しが必要となる。「ミミ」の同音連打を1の指のまま弾くか、1から3に移行するかの場合と「ミミレド」を1・1・②・1と指の返しを入れる場合とがある。タッカのリズムに合わせて同音の指移行はリズムがずれるか、移動の際に音がずれるかのリスクが生じ、さらに音が切れることにより言葉が途切れて聴こえる。これらを考慮すると、指の返しをする方が隣接した音のため望ましいと考えられる。9小節目の出だしのミは、返した指を戻し1の指で弾くことにより、5から6小節目同様、曲の最後まで1・2・3・5のまま弾ききることができる。

最後2小節を除き、全ての小節において付点のいわゆる「タッカ」のリズムが入っている。「カ」の部分が全て16分音符で共通しているため、リズムは取りやすい。

譜表1 おはよう<sup>(1)</sup>

**おはよう**

増子 とし 作詞  
本多 鉄磨 作曲

せん    せ    い    お    は    よ   う            み    な    さ    ん    お    は    よ   う

お    は    な    も    に    こ    に    こ    わ    ら    っ    て    い    ま    す

お                    は    よ   う            お    は    よ                    う

### 3. 1 (2) 【おべんとう】

C-dur でドから8度の音域で4分の2拍子、12小節から成り立つ。4小節ごとにフレーズの最後に8分休符があり息継ぎにゆとりができる曲である。

ミの音から始まり 1 から 4 小節はミソラドしかないため、1 と 2 と 3 と 5 で指使いが固定できる。5 から 8 小節は 6 度音程内に 5 音しかないが、5 小節目出だしのラに 5 の指で弾き、ドレミソラに 1 と 2 と 3 と 4 と 5 の指を置き指の返しをせずに弾くと、3 と 4 の指の間に一音入ることとなり、手の構造からいうと運指に配慮が必要となる可能性が出てくる。さらに、4 小節までの手の位置のまま 5 小節を迎えることは可能だが、そうすると 6 または 7 小節目には同音連打時の指替えをしたり、ミからドに三度下がる場所で指の返しが生じたりして、運指に配慮が必要となり、「おてても きれいになりました」のフレーズに途切れが生じる可能性が出てくる。9 から 12 小節も 6 度音程内に 5 音しかないため、ドレミソラを 1 から 5 の指使いで固定することが、手の構造からは可能な範囲である。5 から 8 小節と 9 から 12 小節は類似した構造ではあるが、難易度に差が出る理由としては 5 から 8 小節は 1 音あげた 3 と 4 の指が往復する一方で、9 から 12 小節はそれがなく、ソミを 4 と 3 の指で弾く箇所が一つという点と、5 から 1 の指までリズムに合わせて降下する点とが挙げられる。

リズムについては、1 小節の中に「タッカ」と「タ・タ」が組み合わされており、「タッカ・タ・タ」は全体で 8 小節に見られる。これは、よく知られる『かたつむり』の「でん・でん むーし・む・し かーた・つ・む りー」と同じリズムである。

譜表 2 おべんとう<sup>(1)</sup>

## おべんとう

天野 蝶 作詞  
一宮 道子 作曲

お べ ん と お べ ん と う れ し い な

お て て も き れ い に な り ま し た

み ん な そ ろ っ て ご あ い さ つ

### 3. 1 (3) [おかえりのうた]

C-dur でドから 8 度の音域で 4 分の 4 拍子、8 小節から成り立つ。小節数は前の 2 曲よ

り少ないが、運指法としても歌唱の息継ぎについても配慮が必要となる曲である。

2小節ごとに休符もしくはブレス記号があるが、4分の4拍子のため、4小節ごとに息継ぎが入る他の2曲と違いがあるように譜面上では見られる。しかし、他が4分の2拍子であるため、差異があるとは言えない。

最初の4小節は、2小節ごとに「タッカ」で4拍と、「タッカ」2回と「タン」の4分音符と「ウン」の4分休符で4拍の組み合わせとなる。5・6小節目は、「ターア・タ・タン・タン」が2回繰り返され、7小節目は「タッカ・タッカ・タン・タン」、8小節目は「ター・アー・アー・ウン」となる。このように様々な組み合わせから成る曲であり、さらにタッカのように跳ねる場合も付点8分音符と16分音符の組み合わせと付点4分音符と8分音符の組み合わせとがある。

運指法としては、5度の音程に収まるフレーズがないため、出だしのソを5の指で弾き、ミを1の指で軸とし指の返しを入れるという方程式を最初にインプットすることで、スムーズに弾ける場合が多い。まず1小節目の4拍目で1度指を返す。2小節目はソが3の指で終わり、3小節目の出だしも手をずらして3の指で弾くことで、下行の1音とばす並びの音でもミに1の指が置かれ指の返しがしやすくなる。5から6小節目では、後半に向けて音が跳び行き来するため、やはり「ミ」を折り返し地点として指を返す方法がスムーズだと考えられる。

しかし、指の返しが苦手な指の送り出しができる学生の場合、一貫して指の返しを避ける方法として、2小節目と4小節目の1拍目では、同音連打の箇所では指の送り出しをすることができる。しかし、こどもの方を見ながら弾くと、よほど連打の指送り練習を重ねておかなければ、連打のところで違う鍵盤に指が移動してしまうリスクが生じる。その後、5小節目「せんせい」のドレミソを1と2と3と5で弾き、6小節目の「さよなら」のラソドラを3と2と5と3で弾くことも提案できる。その場合、続いて7から8小節の6度の音程ではラソミレドの下行を5本の指を置き弾くこともできる。

譜表3 おかえりのうた<sup>(1)</sup>

### おかえりのうた

天野 蝶 作詞  
一宮 道子 作曲

きょ う もた のし く す みま した な かよ しこ よし で か えり ましょう

せ ん せ い さ よ な ら ま た ま た あ し た

### 3. 2. 歌唱に関する考察

#### 3. 2 (1) 【おはよう】

1・2小節の「先生おはよう」と3・4小節の「みなさんおはよう」でお辞儀の振りを入れる場合は、2小節が区切りとなるため、運指法としては2と3小節のつなぎ目が途切れても息継ぎを入れることができ、動作の区切りも分かりやすいので違和感がないが、4小節を「先生おはよう みなさんおはよう」を一息で歌いきる場合は、2と3小節の間は途切れない方がよい。全体の歌詞を見ると、「お花もにこにこ 笑っています」「おはよう おはよう」と4小節ずつ区切れているので、1から4小節も一息で歌いきることで統一をすると呼吸する間隔が一定となり、声量が安定する。またフレーズを意識することにより、「せっんせっいおっはよっ みんなさっんおっはよっ」のような音節を無視したような歌い方は減少すると考えられる。特に、タッカのリズムの曲は、歌い方にも弾みがつきやすいのでフレーズを配慮したい。

#### 3. 2 (2) 【おべんとう】

歌詞では「おーべ・ん・と おーべ・ん・と」と歌うが、実際は「おーべ・んーと おーべ・んーと」と「タッカ」のリズムを重ねたように歌ってしまう。これは、撥音の「ん」が入ることが要因と考えられる。「タッカ」のリズムを教える場合には、跳ねるよう伝えることに意識がいきやすいが、「タッカ」を単独で教える付点分空けることを伝えるのではなく、「カ」と次の「タ」の間隔の狭さを伝える方が指の覚えが早い場合もある。つまり、「タッ」を抜いて「カタ・タ」と「カタ」に着目して、連続した音の間隔の狭さを覚えるということである。本曲では、「おーべ・ん・と」の「べん」の間隔を先に身につけることで、リズムの獲得につながる。

最初は2小節ずつ区切って息継ぎを入れても歌詞としては構わないが、5から8小節目の「おてても きれいになりました」が4小節で一文となるため、それを基準に4小節ずつ息継ぎを入れると、流れるように歌詞は聴こえる。また、2小節ずつよりも4小節毎の方が付点4分音符の後に8分休符が入るため、息継ぎがしやすい。しかし、音価を忠実に表現しようとした場合、ゆったりと息継ぎをすると付点4分音符が短くなるため、次のフレーズに入る前に、急激に吸うということを子どもたちに伝えたと分かりやすいであろう。これは、音楽的に音価を子どもに教えるためというよりも、領域でいうと「表現」よりも「健康」を意識した理由である。

#### 3. 2 (3) 【おかえりのうた】

タッカのように跳ねる音も、付点8分音符と16分音符の組み合わせと付点4分音符と8分音符の組み合わせとがある。厳密にいうとそれぞれ着地音となる16分音符と8分音符



では音価が違うが、こどもも保育者志望の初学者も同じ音価で歌ったり弾いたりしている。

また、速度表示は♩=126 とあるが、筆者が前の研究でも述べたよう<sup>(2)(3)</sup>に、保育現場では一人担任の場合、特に帰りの会の前後は怒涛の時間となる。帰りの身支度の促しや排泄、明日に向けてのこどもへの話以外に、早く迎えにくる保護者への対応などを想定しながら、ゆったりとこの「おかえりのうた」を歌う日が毎日ではなかった。当然いつもと異なるテンポで歌うとこどもは園での一日を思い描きながら歌を味わうというよりも、ついでいくのがやっとなで、言葉の途中で息を吸う場面も見られた。意図的にテンポを遅くしたり速くしたりして遊ぶ歌もあれば、表現面で思い描きながら味わう歌もある。この「おかえりのうた」は後者であろう。しかし、前述のとおり楽曲的にも歌う場面の背景からも運指には配慮したい。

4分の4拍子の曲で1小節内の音も多いため、吐く息の量を考慮すると、2小節毎で息継ぎをすることが好ましい。作詞作曲段階において、こどもの肺活量を配慮したフレーズと休符の長さ、歌詞となっている。

#### 4. まとめ

保育の場における歌唱活動は、表現遊びとしての役割の他に、日常の生活の一部となっているところがある。“遊び”の観点からは楽しくのびのびと歌うことやイメージしたことを言葉や声を使って表現することが挙げられる。しかし、歌詞やメロディを味わうということを鑑みると、息継ぎや伴奏となる保育者のメロディの弾き方、さらに弾き方に付随する運指法を検討する必要があると考えた。

ピアノを得意としない保育者が、たどたどしくもこどものために伴奏を頑張る場合において、こどもはその音楽を受け入れ、保育者の人柄や関係性から一生懸命歌うであろう。しかし、絵本の読み聞かせにおいて、読み手の声のトーンや間の取り方、抑揚の有無によって聞き手の感じ方が異なるのと同様に、伴奏をする以上は、保育者は、自分の弾き方がこどもの表現の一部となっていることを忘れてはならない。そういった意味でも、ただ音を並べて間違えずに弾くよりも、こどもの呼吸（姿）に合わせて弾く（遊ぶ）ことが、こどもが主体的な表現をする環境づくりにつながると考える。

季節の歌や遊びの歌など、中には一曲が長い歌や頻度の高くない歌の場合を除き、本論で取り上げた生活の歌のように、日々歌う曲であり短い曲である場合に、指使いを固定した方が覚えやすく、伴奏時のミスも減るであろう。さらに、ミスが減り鍵盤ではなくこどもの表情を見ながら、保育者自身もこどもと同じ気持ちになって語り弾きすることができよう。

付記 ピアノ初学者を対象に、ピアノレッスン時に多様な運指法を実践した。それぞれの持つリズム感や指の動きによって指導法を検討し、それを記入したレッスンノートを本分

析に利用した。対象者には本研究の主旨を説明し、承諾を得た。

#### 引用・参考文献

- (1) 田中常雄監修：こどものうた、圭文社、2011 年
- (2) 松本亜香里：実習に先立つ音楽指導に活かすために－ピアノ伴奏のテンポの変動についての考察－、日本保育学会第 61 回大会研究論文集 p236、2008 年
- (3) 松本亜香里：実習に先立つ音楽指導に活かすために (2)－身体表現によるリズムの理解－、日本保育学会第 62 回大会研究論文集 p103、2009 年
- (4) 大串健吾：ピアノ演奏に現れた日本人と欧州人のリズム感の差異、日本音響学会聴覚研究会資料 Vol37 No1 pp.1-5、2007 年
- (5) 上田豊：子どもの歌の現状と分析－保育者養成校と保育現場のアンケートより－、全国大学音楽教育学会研究紀要別冊号 pp.53-55、2009 年
- (6) 西澤志穂：幼児の音楽表現における付点 8 分音符+16 分音符のリズム、東洋大学大学院紀要 54 巻 pp.319-342、2017 年
- (7) 高御堂愛子他監修：保育者をめざす楽しい音楽表現、圭文社、2017 年